

ムスメ

ちゃん

高岡凡太郎

たかおかぼんたろう

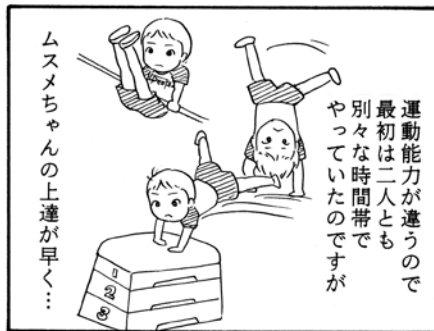
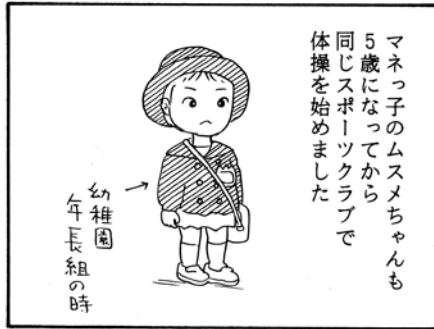


ムスメちゃんがカマキリの卵を持って帰った。

で! 「カマキリあげようか?」と学校で注文を取り

「〇〇さんに1匹△△さんに3匹あげる」ともうカマキリの約束までできているそうです。





二年生の妹に
追い越されてしまった
五年生の姉の気持ちは
どんなものか？

妹に
出来ることは
自分には
出来ない…
そんなことで
ひげめを
感じると
困る



そしてある日
なっちゃん
あたしの前で
側転ばかりして
いらつく！
「なっちゃん
ムスメちゃん
とは」
名前

？

側転が
できるように
なってる
嬉しいん
じゃない？

「これ
できる？」って
あたしが
できないこと
ばかり
やるんだもん！



「さかあがりくらいは
出来るようになってほしい」と
通わせ始めた体操教室です

内容もだんだん高度なことに
移り 体操の選手に
させるつもりもなかったので
「もうやめさせてもいいかな」
と 思っていたこともあり…



体操
もう
そろそろ
やめても
いいんじゃない？

と
姉ムスメちゃんに
たずねてみると

まだ
やりたい！



やっとな
お姉ちゃんに
勝てることが
できて
喜んでるん
だよ

「なっちゃん
は
ズーっと
あんたが
「目標の人」
だから」

学校から
帰る時もね

ランドセル
どーんと
押すんだよ



ムスメちゃんの方は
習っていることが
上手に出来るのが
うれしいらしく

家の中でも
よく練習をしていました



それは
お姉ちゃんに
会えて
嬉しいから
やるんだよ

と
お父さんは
姉ムスメちゃんを
なぐさめました

押す
だけじゃ
なくて
「こーらー」って
頭も叩いた



